

【昨日の市況概要】				公示仲値	155.87
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	155.91	1.1602	180.75	1.3241	0.6553
SYD-NY High	156.21	1.1653	181.12	1.3275	0.6565
SYD-NY Low	154.67	1.1589	180.17	1.3206	0.6537
NY 5:00 PM	155.51	1.1610	180.50	1.3211	0.6543
	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	47,289.33	▲ 427.09	日本2年債	1.0200%	0.0500%
NASDAQ	23,275.92	▲ 89.77	日本10年債	1.8700%	0.0700%
S&P	6,812.63	▲ 36.46	米国2年債	3.5314%	0.0360%
日経平均	49,303.28	▲ 950.63	米国5年債	3.6648%	0.0667%
TOPIX	3,338.33	▲ 40.11	米国10年債	4.0894%	0.0733%
ｼｺﾞﾄﾞ日経先物	49,500.00	▲ 745.00	独10年債	2.7482%	0.0578%
ロンドンFT	9,702.53	▲ 17.98	英10年債	4.4800%	0.0405%
DAX	23,589.44	▲ 247.35	豪10年債	4.5560%	0.0290%
ハンセン指数	26,033.26	174.37	USDJPY 1M Vol	9.16%	0.04%
上海総合	3,914.01	25.41	USDJPY 3M Vol	9.36%	▲0.05%
NY金	4,274.80	19.90	USDJPY 6M Vol	9.42%	▲0.13%
WTI	59.32	0.77	USDJPY 1M 25RR	▲0.72%	Yen Call Over
CRB指数	302.74	1.25	EURJPY 3M Vol	7.86%	▲0.04%
ドルインデックス	99.41	▲ 0.04	EURJPY 6M Vol	8.18%	▲0.07%

【昨日の指標等】					
Date	Time	Event		結果	予想
12月1日	10:05	日	植田 日銀総裁 講演	-	利上げの是非について適切に判断したい
	23:45	米	製造業PMI・確報	11月	52.2 51.9
12月2日	00:00	米	ISM製造業景況指数	11月	48.2 49.0
【本日の予定】					
Date	Time	Event		予想	前回
12月2日	10:00	米	パウエルFRB議長 講演	-	-
	19:00	欧	失業率	10月	6.3% 6.3%
	19:00	欧	CPI速報値(前年比)・速報	11月	2.1% 2.1%
	19:00	欧	CPI(前月比)・速報	11月	-0.3% 0.2%
12月3日	00:00	米	ボウマンFRB副議長 講演	-	-

東京	東京時間のドル円は155.91レベルでオープン。注目の植田総裁講演は内容自体に目新しさはなかったものの12月利上げを否定するような内容ではなかったことに加えて、リスク資産の軟調な地合いもあってか155.40まで下落。追加材料がなかったこともあり下げ止まったものの、上値は重く155.65レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、155.65レベルでオープン。海外時間の流れが続き、155円の節目を割り込む展開。結局154.80レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	NY市場のドル円は午前中に発表された米11月製造業PMIが上方修正された事や、米11月ISM製造業景況指数の支払価格が予想を上回った事が材料視され、米金利の上昇と共に155.30付近まで上昇。午後ドル高の流れが続き、155.52まで上値を伸ばす。その後も高値圏の155.50付近での推移が続き、155.51レベルでクロス。一方、ユーロドルは先述の予想を上回った米経済指標の結果を受けたドル買い地合いが重しとなり、1.1620付近まで下落する軟調な推移。午後ドル買いの流れが一段の重しとなり、1.1607まで値を下げ、その後1.1610レベルでクロス。

【ドル円相場】

【対円騰落率(日次)】

【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	155.00-156.50	1.1550-1.1650	180.00-181.50

【マーケット・インプレッション】

本日のドル円は堅調な推移を予想。昨日行われた植田総裁の講演と記者会見では12月会合での追加利上げに道を開くような発言が散見された。これを受けて為替市場では円買いが進み一時154円台を付ける場面が見られた。もともと、利上げのタイミングが12月になったとしても、更なる追加利上げが連続的に行われる可能性は足元の日本経済の状況を鑑みれば、かなり低いと言えるのではないかと。ターミナルレートの水準が大きく変わらない状況においては追加利上げ期待の値動きは一時的なものに過ぎないであろう。寧ろ、時間経過とともに利上げ材料の出尽くし感が意識されてしまうリスクは相応にあるのかもしれない。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。